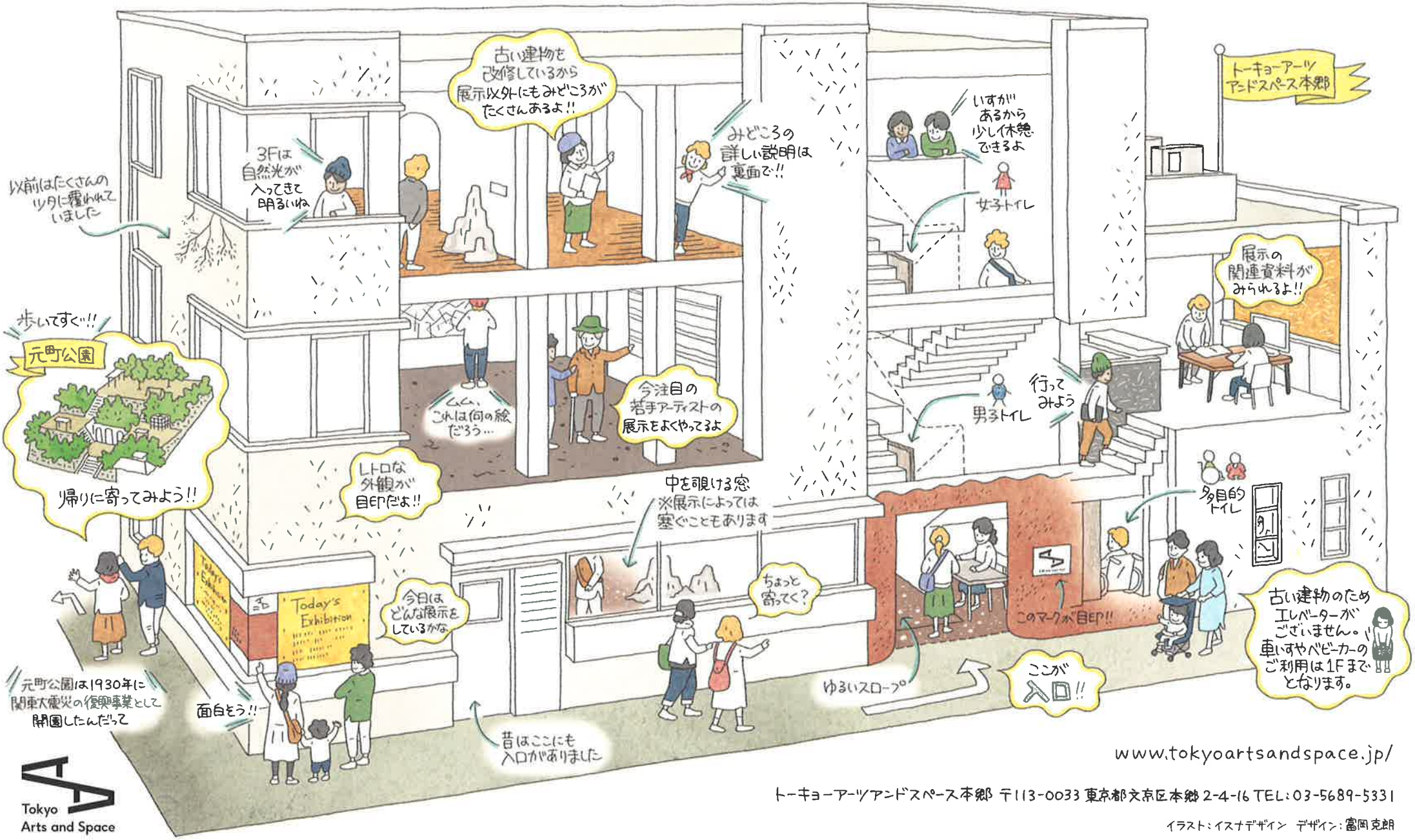
解説!! トーキョーアーツアンドスペース本郷

Explained! Tokyo Arts and Space Hongo (TOKAS)

TOKAS本郷の建物は、1928(昭和3)年に作られた鉄筋コンクリート造3階建てです。当時は求職者に仕事を紹介する職業紹介所でした。1949年からは長く職業訓練校として使用され、2001年にアートセンターとして開館しました。2019年で91歳です。(設計:東京市 施工:小田組)



www.tokyoartsandspace.jp/

Tokyo Arts and Space

トーキョーアーツアンドスペース本郷 〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-16 TEL:03-5689-5331

イラスト:イスナデザイン デザイン:富岡克朗

館内探索マップ

Exploration guide

TOKAS本郷の建物には、展示作品のほかにも見どころがたくさんあります。1Fから3Fまで、マップを手に探索してみよう。

まめ知識 Trivia

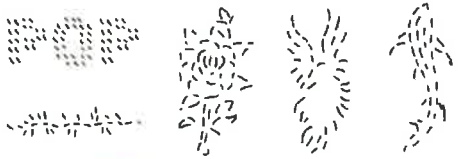
2001年の改修では、壁や床の多くが左官職人の久住章さんによって手掛けられました。左官とは、建物の壁や床などを、〝こて〟という道具を使って塗り仕上げる仕事です。

久住 章 くすみあきら

1948年兵庫県淡路島生まれ。日本を代表する左官職人。

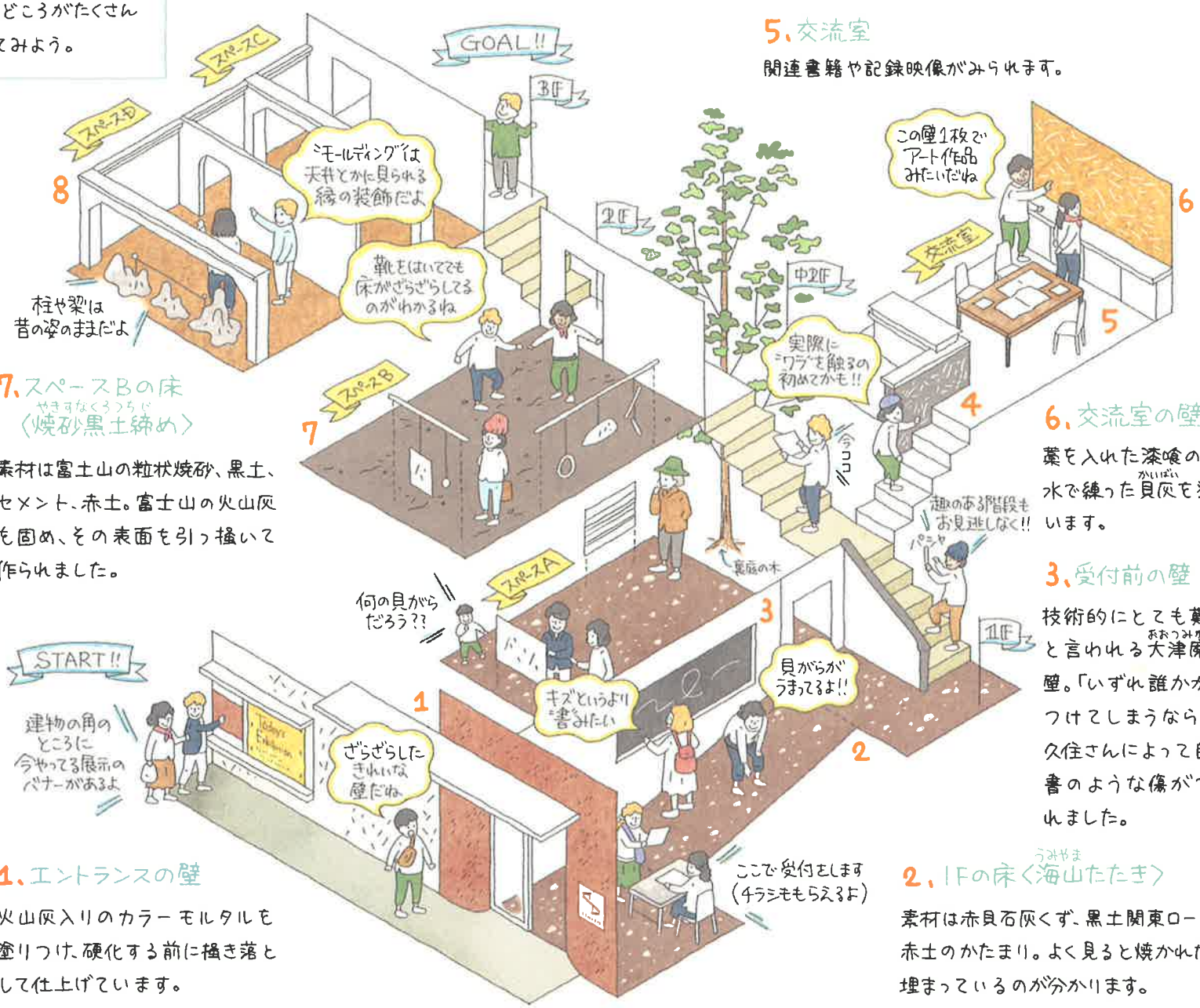
探してみよう! Spot the works!

マーティン・シュミットさんによる〈ウォールタトゥー〉。ドリルで穴を開けることで、壁に模様を入れるプロジェクトを2003年に行いました。壁を人間の肌のように感じることで、自分をとりまく場と身体の関係について考える作品です。館内に全部で5つあります。



マーティン・シュミット

1970年ドイツ生まれ。「Out of the Blue」(2003年)参加。



8、スペースC・Dの天井

石膏プラスターでモールディングされた梁型(はりがた)やアーチなど、戦前の建物の面影が残っています。現在は既存の梁、壁のデザインを活かした隅部(すみぶ)仕上げを行っています。

7、スペースBの床〈焼砂黒土締め(やきすなくろつちじめ)〉

素材は富士山の粒状焼砂、黒土、セメント、赤土。富士山の火山灰も固め、その表面を引っ掻いて作られました。

1、エントランスの壁

火山灰入りのカラーモルタルを塗りつけ、硬化する前に掻き落として仕上げています。

4、カウンター

聚楽土(じゅらくつち)切り藁入りかきおとし仕上げ。土壁が乾いた後にもう一度濡らし、表面をかき落とすことによって、細かく切られた藁を浮かび上がらせました。

5、交流室

関連書籍や記録映像がみられます。

6、交流室の壁

藁を入れた漆喰の上に、水で練った貝灰(かいばい)を塗っています。

3、受付前の壁

技術的にとても難しいと言われる大津磨(おおつみが)きの壁。「いずれ誰かが傷をつけてしまうなら…」と久住さんによって自由な書のような傷がつけられました。

2、1Fの床〈海山(うみやま)たたき〉

素材は赤貝石灰くず、黒土関東ローム層、赤土のかたまり。よく見ると焼かれた貝が埋まっているのが分かります。